

## フードシステム

### 地域に根ざした価値の創造を

#### — J A馬路村の取組みから —

馬路村は高知県東部安芸郡にあり、総面積の九七%を山林が占める典型的な山村地域にある。J Aでは村の伝統的な作物であるゆずを活かして、地域農業や地域そのものの活性化を果たしている。単に生産したものを販売するだけではなく、加工・流通、観光や交流、さらに癒しや安らぎといった面まで含めて高度化し、付加価値の高い産業をめざしていこうという取組みである。

#### 一 農産加工による地域イメージの創生

**(一) 強固な顧客基盤**  
J Aでは地域イメージを製品化し、通信販売による産地直販型の強固な顧客基盤を確立した。電話やファックスでの注文に並び、現在は単に商品を販売するというだけでなく、顧客志向による顔の見える関係づくりに取り組んでいる。

#### (二) 地域イメージの定着

馬路村の魅力は自然とそこに暮す人々の営みである。山があって、清流が流れ、空気が澄み、鳥がさえずる。そこでは都会の喧騒からはなれて、ゆっくりとした時間が流れる。そういう地域の持つイメージを定着させた。

地域特産物には大手企業の製品にない品質と特徴がなければ対抗できない。馬路村の製品は、その地域のイメージが多くの消費者に受け入れられ、顧客基盤をより強固なものとしている。

#### (三) 豊富なゆず加工品

J Aでは、ゆず搾汁の需要拡大と原料の有効利用といった、大きく二つの観点から製品開発に取り組んできた。この結果、他のゆず産地の追随を許さない製品群を要するまでになっている。

#### 二 ゆず加工事業の効果

##### (一) 地域農業の振興

J A馬路村では、ゆず生産者約一七〇戸の全生産量を引取り、加工・販売をおこなっている。ゆずは全量買取であり、ゆず栽培は地域農業の核となっている。J Aや村の生産振興もあって、耕作できるところにはゆずを植え、耕作放棄もなくなっている。

##### (二) 地域の振興

馬路村は梁瀬杉に代表される良質な森林資源に恵まれ、林業のさかんな地域であるが、木材価格の低迷によって厳しい局面に置かれている。

こうした中でゆず加工が生み出す付加価値は大きく、林業のほか特に産業のない村にとつては、基幹産業となっている。また雇用面での効果も大きいものがある。

##### (三) J Aの基盤の柱に

わが国農業は厳しい局面に立たされてお

り、J Aおよび系統組織をめぐる事業環境は厳しいものがある。こうした中で、いかにJ Aの基盤を強固なものにするかが重要で、それには組合員の信頼と核となる事業が不可欠である。同J Aの場合、ゆず加工への長年にわたる苦心と販売努力によって、生産から加工・販売の一貫した体制を構築することができた。

#### 三 地域活力の創出と展望

##### (一) 消費者との交流の促進

同J Aでは、村とも連携して、「ゆずの森構想」を検討している。今後はより地域を知ってもらい、体感してもらってリーダーを増やしていくことが重要であるとの視点から、消費者との交流の促進に取り組んでいる。

##### (二) 情報化への取組み

大量販売の時代から物の売れない時代に突入している。こういう時代にあつては、いかに個性化をはかるかが必要で、情報化への取組みがポイントである。J Aでは、地域イメージの普及と顔の見える関係の構築に注力している。

##### (三) 地域との連携強化

同J Aの場合、ゆず加工を通じて、消費者、民間企業、流通業、運輸業、行政、地域、系統団体との連携関係を築いてきた。今後はさらに多方面との連携関係を強化し、総合力を発揮していくことで、より時代にあった消費者のニーズを先取りする対応を目指している。

(鴻巣 正)